

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2271100841		
法人名	企業組合 つどい		
事業所名	グループホーム つどい		
所在地	静岡県沼津市東椎路1502-2		
自己評価作成日	平成30年7月6日	評価結果市町村受理日	平成30年8月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kan=true&amp;jiyosyoCd=2271100841-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kan=true&amp;jiyosyoCd=2271100841-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年7月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

スーパーや薬局、病院等が近くにある利便性の高さと静謐な環境を両立。600坪の広い敷地の中で伸び伸びと穏やかな生活ができる環境にあります。食材や植木など四季折々の変化を楽しめる努力も怠りません。医療連携が十分に稼働する中、50数例の看取りも経験しております。最後まで心穏やかに過ごしていただける施設でありたいと思っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

女性経営者の良さが「整理整頓、清掃の徹底による清潔」「小鉢多用の彩、栄養満点の食事」「季節の生花」によく表れている事業所です。また創業から看取りを50例以上取組んできたことも事業所の特長の一つです。これまでは看取り加算もとっていませんでしたが、本年4月から理事に医師が加わってことで、それらも視野に入ってきています。職員には代表から声掛けの徹底が日々あり、特に入所間もない利用者には集中的に集中的に早期に安心感を培う指導があるほか、あしたか納涼まつり等地域行事は休憩処もないため、露天のモノを職員が購入して中で愉しむといった事例からも、暮らし心地に力を注いでいることが伝わります。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理解し共有できていると思う。	「愛し、生かし、許せ」は、掲示も唱和もしていませんが、職員には浸透していて、例えば夜勤者が朝晩や日勤の人に配慮して少し残るといったようなことが日常的にあり、職員間の相互扶助が自然にできています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に飲食店や商業施設に恵まれ、散歩を兼ね日常的に利用しております。	此处2年地元の人たちが集うイベントが事業所の空き地でおこなわれ、事業所では電気、水道、トイレの貸し出しで協力しています。また開設時の町内会長は今でも野菜を届けに立ち寄ってくださいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気軽に相談できる環境作り、又、外に向けての情報発信に努める。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームを理解して頂き、共に支え合える関係の構築に努める。	利用者にも参加してもらえ、隔月開催が叶っています。自治会長、民生委員、行政とそれぞれの役割や知識に応じた意見や質問ができて有意義な場としてくださっていることを議事録で視認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	皆に親しまれるグループホームであるよう風通しを良くする努力を惜しまない。各方面と良好な関係を構築できている。	市の研修会は概ね出席しています。運営推進会議にも市役所、地域包括支援センター両者にメンバーになってもらえ、認知症サポーター養成研修の案内等もその場で届き、運営全般の助けとなっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の尊厳を守る事は余力ある人員や介護力も重要と考える。	これまであった「グループホームつどい身体拘束委員会」をそのまま新たな法令に沿った委員会として移行していて、本年度はすでに1回開催しています。係る症状の人はないため、気になること等の意見交換がおこなわれています。	これまであった委員会を踏まえて新たにスタートした委員会である、ということが明確になるよう書面化することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	くり返し、話し、学ぶ事により職員の意識を高めるよう努める。サービス担当者会議を有効に利用し、繰り返し学び実践に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	共に学び、常日頃話す機会を持ち理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・ご家族様に安心して頂けるよう、誠意を持ってわかり易く説明する努力をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が見えた時は、必ず何か気になる事はないか管理者及び職員が声かけしています。	実の親、嫁ぎ先の親、嫁の実父と続けて入所となったという例や、本人は退所したのに息子が毎月ギター演奏に訪れてくれている例からは、信頼と愛着が満ちていることが覗えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや担当者会議など活発な意見交換があります。 押しつけではない現状を心掛けています。	トップからは「これをしてはいけない」「こうして欲しい」のルールが明確な一方で、自主性も重んじていて発意を大切にしているためか、職員からは「こうしませんか」「こうしましょう」との意見がでてきます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	小さな職場の特性を活かし即断即決、正しく見る、聞く話す。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各人に合わせた指導。 特性を活かす。 研修に参加。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	貢献できることは何か。 お返し的人生としての役割。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの聞き取りが主となるが、ご本人様の気持ちも重視し、早期に居心地良く安心できるような場所作りを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に傾聴し、方向性を示している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位を決め、今できることからするよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	皆家族としてとらえ、生活を共にしているという関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	私たちにできない唯一の事は家族との関わりとを考えます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで関わった方達が来設したり居心地の良い環境作りを心掛けています。	今までやってきたことを継続する事は少なく、編み物と読書が僅かに続けている人がいます。家族、友人の来所は絶えることはなく、家族の中には本人の居室に自身の椅子を置いている人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	丸テーブルは私達のこだわりのひとつです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から近況報告を頂いたり、頂き物があつたり、お返しをしたりしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難な場面も多いですが、その日の表情から多くをくみ取るよう努めています。	職員には代表から声掛けの徹底が日々あり、特に入所したばかりの利用者には「集中的に関わることで早期に安心感を培うよう」指導があります。また利用者の壮健で会話が豊富な様子からも安寧が受けとめられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や書面を参考にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	規則正しい生活の中で、個々の特性を活かした過ごし方に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人の担当者、職員全員の意見、夜勤者等、担当者会議で話し合いプランに反映しています。	職員が1名の利用者を担当する形をとっているため、職員間で情報共有しつつも、その人にとって親身な存在となっています。通常ケアカンファレンスという場を本事業所では「担当者会議」呼んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有(引き継ぎノート等)やプランの改善は月1度の担当者会議を利用し行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小さな施設の特性を活かし、きめ細やかなサービスに常に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者のニーズに合わせた個別の対応に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族及び本人の意見を尊重しながら当方の専属医との連携に努めています。	月2回訪問する協力医に全員替えています。週1度訪問看護師の来所があり、医師の訪問と日程を調整して連携してもらっています。立ち合う職員はその日の日勤で、医療情報はリビングの棚に在り、常に確認できます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診記録、訪問看護記録はわかりやすく記入し、共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の利用者への係り、退院時の受け入れ態勢など、密に話し合われています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは50例以上は経験しています。医療関係も十分稼働しています。	取組み例が多いことから、職員はごく普通のこととして受け止めています。50例以上のお見送りをしてきましたが、いずれも不祝儀、供花を届け、代表若しくは代わる人が弔問に向いていて、丁寧にお見送りしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元の方に協力頂ける関係作りや、自分達で守る体制作りを心掛けています。	昨年度は2回おこなえませんでした。実施した1回は消防署に計画を提出できています。地域の皆さんの役にたつようにと、備蓄も少し多めにあります。	法令に基づき年2回できるよう、年間計画を整備することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の持つ力、怖さも又、自覚していきたい と思います。 とても大切な事と考えています。	一人ひとりの利用者の特性を鑑みたケアを おこなってほしいとして、職員には代表が直 接指導していて、ほとんどの職員は1度言わ れたことは正すことができます。	利用者の前で錶を使って食事を刻ん でいたことから、マナー的かどうかという ことを職員間で一度話し合う ことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	1日の流れは決まっていますが、自由に過 す時間はそれぞれの好みで過ごせるよう支 援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	安全な暮らしの中で、安心して過ごして頂け るよう努力しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	個性を大切に配色、素材に細かく配慮して います。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	基本、食事作りは職員が行なっています。 皮むき等、危険でない事は手伝っていただ いています。	ごく普通の家庭の献立が洒落た器に盛られ ていて、かくし包丁等からも職員のおもてなし の気持ちが伝わります。丸い大きなテー ブルを皆で囲み、お互いの顔が見えるなかで楽 しい雰囲気の時間が流れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	水分量や食事摂取量は記録しています。 食事に問題のある方は医師に相談したり、 経腸栄養剤等に対応もしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	ご自身で歯磨きのできる方は後で職員がも う1度清潔にし、できない方には職員が対応 しています。 汚れは当然ですが、口臭にも十分気をつけ ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ内での排泄に心掛け、各人に合わせた指導が出来ている。 パット類は常に適した物を使用出来るように話し合いを行っています。	夜間は2名のみオムツに切り替えています が、日中は全員がリハパンとパットで「できる限りトイレで」を目指して取り組み、また消耗品は事業所が一括購入で、本人に合ったものを使用できるよう努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックノートにより管理できています。 申し送りは必ず職員に周知するように行っています。 自然の排便を心掛ける。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、午後入浴を行う。 全身観察はゆったりとした時間の流れる中しっかりとできています。 「気持ち良い、幸せ」との言葉が嬉しい介助です。	週2回を目安としています。同性介助の希望はなく、男性職員が入浴専任で介助をおこなっています。同じ人がおこなうことでは見落としがあるかもと危惧されるため、今後は月に1回は他の職員が入ることも検討中です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良眠出来るよう年齢やお一人お一人の状態に応じた1日の過ごし方、細かな援助に努めています。 清潔な寝具を常に心掛けております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りノートを最大限活用し、職員全員が理解徹底できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の一人一人の生活歴が活かせるよう支援しています。 新しい事へのチャレンジも刺激になって良いですね。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は戸外でお茶を飲んだり、ベンチで日光浴をしたり、コンビニや近所のパン屋さんへ出向くなど個別の援助ができています。	毎日の散歩はマンツーマンで少しずつ外気浴を味わうほか、SAや回転寿司などに2ヶ月に1度は全員で出かけています。あしたか納涼まつりをはじめ地域行事は休憩処もなく出るのが難しいため、露天のモノを職員が購入してきて中で愉しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	身近なコンビニでの利用は日常的に行われています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	頂く事が多い。 皆で話す話題作りにもなっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	デイルームからの景観、常に明るく清潔な空間、室温や換気など十分に配慮された日常。	洗面台やトイレなどにはカフェカーテンと小さな植物が置かれ、居心地の良さを高めています。リビングの真ん中にはたくさんの百合の束が、花粉を取り除いた状態で配置され、他にも多種多様な花々が在り、和みます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活としての過ごし方、メリハリのある1日であるよう心掛けています。 各人に合った時間の過ごし方を心掛ける。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物は自宅より持参して頂き、清潔な使いやすい居室作りを心掛けています。	ベットと小さなチェストがあるだけで、すっきり片付けられていて、その人らしい持ち物はほぼ見当たりません。昼食後は半分の方は午睡など、居室でゆったり過ごしていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各人の出来る力を活かした、寄り添うケアを大事にしています。		